

平成27年度「放課後子ども教室」取組の概要

市町村名	学校名等
櫃原市	櫃原市立畝傍中学校

- ① 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）
さまざまな活動を通して、自分たちの生活や学習、人権について見つめ考える。
- ② 課題解決に向けた具体の取組
放課後子ども教室 体験学習 ボランティア活動等

《放課後子ども教室》

放課後、また土曜日、長期休暇中に、自分で学習することが困難な生徒、低学力傾向の生徒を対象として、勉強会を開いている。一回の勉強会につき、多いときで15名程度、少ないときで2～3名の生徒と勉強をしている。時間は長いときで3時間、短いときで1時間程度のときもある。勉強会では、1人の教師、あるいは学習アドバイザーに対して3名程度の生徒が、こちらから与えたものか、生徒たちが持ってきた課題に取り組んでいる。



教室での授業ではなかなか学習に、手のつかない生徒も現実にはいるが、学習会に参加する生徒の中で、勉強せず他のことをしている生徒はまずいない。子どもたちにとってこの学習会が大切な勉強をする場として定着している。

《畝中フェスタ 9月》

昨年度まで、実施していた文化活動発表会と人権フェスタを、今年は、1日にまとめて、畝中フェスタとして実施した。午前中は、人権フェスタの部、午後は、文化活動発表の部として発表を行っていただいた。文化活動発表は、夏休み中に文化部の生徒が時間をかけて、準備したものを発表していただいた。



人権フェスタは十数年前に、なかまとのつながりを大切にする活動の場として実施されていた行事を復活したものである。今年も3年生有志が中心となり、夏休み前から、夏休み明けまでたいへん精力的に準備をしていただいた。まず、人権作文の発表があり、各学年の代表者から、「命」[1年]・「ともだち」[1年]・「想像」[1年]・「畝傍中学夜間学級訪問」[3年]をテーマに、自らの決意を述べました。2年生は、1学期の「あの子」の寸劇の取組や部落問題学習「タイムトラベラーゆき」の学習について、報告してもらった。続いて、3年生有志が人権劇「タイムトラベラーゆき」を披露しました。3年生の劇を中心に、どの学年の内容もうわさや偏見の問題、いじめ・差別やなかまはずしの問題について、生徒たちが問いかけてくれている内容になりました。